

高校戦隊テックレンジャー見参！

～コンピュータ制御部の活動について～

長野県飯田OIDE長姫高校 コンピュータ制御部 竹内 浩一

長野県飯田OIDE長姫高校は平成25年4月に飯田工業高校と飯田長姫高校が統合して総合技術高校として開校した。新しい高校の誕生ということで生徒も教職員も張り切って活動している。学習活動に力を入れるのはもちろん、クラブ活動もとても盛んで、運動部の他に専門性を生かした文化系クラブの活動にも力が入っている。

その一つであるコンピュータ制御部は、インドアプレーン製作・大会出場、テックレンジャーの開発・ショーの公演、各種CMコンテスト、紙飛行機製作教室ボランティアなどを主な内容として活動している。部員は3年生13名、2年生1名、1年生1名である。ものづくりの楽しさをまずは自分たちが確認し、それを子ども達に知ってもらうことが大きな目標である。活動内容を以下に紹介したい。

1. テックレンジャーショー

コンピュータ制御部の主となる活動である。平成22年度の電子機械科3年生は課題研究でヒーローマスクの製作をテーマにし、ヒーロー3体分のマスクを完成し、簡単なショーを演じた(写真1, 2, 3)。この時のマスクを元にして、

ヒーローを7体に増やし、悪役5体をクラブで完成し、台本・進行用BGMも生徒が準備収録し、ヒーローショーとして公演している。ショーで使う正義と悪の派手な武器も生徒が自作している。

【テックレンジャーストーリー】

「地球から10万光年離れた銀河の外れに、ウリヤン星という放射能をエネルギーとする怪人の大帝国があった。怪人は銀河の星を次々と侵略し、資源を奪い取り、生存する生物を絶滅させていった。そして、2013年、ついにウリヤン星の大艦隊が地球に到着し、大気圏に次々と突入、人々を攻撃し始めた。人類は絶体絶命のピンチに陥ってしまったのである。しかし、この時、地球の飯田市に怪人に立ち向かう勇敢な若き戦士がいた。その名は“テックレンジャー！”地球を守るべく、壮絶な闘いの火ぶたが切られたのである。」

テックレンジャーショーは、ウリヤン星からの侵略者から地球の平和を守るテックレンジャーの活躍を、飯田OIDE長姫高校コンピュータ



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

制御部の生徒が演じる科学冒険ショーである。マスクや衣装、そして武器も生徒の手作りである。ショー本体は30分、握手会・撮影会に20分ほどの時間がかかる。通気性の悪いマスクと衣装を装備するので、夏の暑さは非常につらい。どんなに暑くてもお腹が空いても、衣装をつけて“テックレンジャー”である間、生徒達はふーふーいいながら1時間ほど子ども達の前ではヒーローであり続ける。

「お父さんやお母さんの言うことを聞かない子はいないかな～？、お手伝いをしない子はいないかな～？」子ども達は、大悪ストロンチム登場に、びびりまくる。怖くて逃げ出す子どももいる。途中、モールを使った悪の武器が炸裂し、テックレンジャーはウリャン星人にやられてしまい、絶体絶命のピンチに陥る。そんなときは、「テックレンジャーが危ないぞ！みんなの声援パワーが必要だ！」「がんばれ～、がんばれ～…」周囲に響き渡る声援パワーを受け取ってテックマスターが登場し、みんなの声援パワーを受け取り、テックレンジャーは見事、復活し、ウリャン星人をやっつけるのである（写

真4～7）。

おかげさまでショーは子ども達に大人気だ。ショーを公演した翌日は、ビデオを見ながら反省会を行い、うまくできた部分、失敗した部分をお互いに指摘する。そして、修正できる部分や新しく導入できるシーンを検討する。特に、子ども達の「がんばれ～、がんばれ～」という声援が大きければ大きいほど、生徒は「今回はすごくたくさん応援してくれた、公演してよかった。」と自信を持ち、次回もがんばろうというモチベーションへとつながるのである。

飯田市風越子どもの森公園で年に2回ほど、おもしろ科学工房のみなさんのお手伝いもする。ここでは様々な科学実験や工作を教えて頂き、ショーの演出にも参考にさせて頂いている。5月におこなったショーでは1000人の子ども達と保護者の方に見て頂くことができた。地元だけでこれまでに10回を超える公演を行っている（写真8、9）。

ショーは長野県内だけではない。今年の4月下旬には静岡県の大きなお寺である可睡齋（秋葉様）に呼ばれて公演を行った。わざわざバス



写真7



写真8



写真9



写真10



写真11



写真12

を用意してお迎えに来て頂き、宿泊させて頂きながらショーを行った。静岡の方に楽しんで頂けたかどうか心配だったが、後日ツイッターで「たいしたことはないだろうと暇つぶしのつもりで見に行ったら、本格的でびっくり、レベルが高くとても楽しいショーでした。」などの感想を寄せて頂き、うれしかった（写真10）。

平成24年5月～7月にかけてはNHK Eテレの番組“フレフレ”に出演させて頂いた。前年の文化祭ではお客さんが少なくとても悲しい思いをしたので、どうしたらたくさんのお客さんに見てもらえるか？、を題材として取材を受けた。女優の長澤奈央さんが来校し、生徒の演技指導をしてくれたり、悩みを聞いて頂いた。そのかいもあって、この年の文化祭（統合前の最後の飯工祭）では開催2日間とも、500人を越えるお客さんに見て頂いた。番組は6月と7月に合計45分間放映され、あちこちから「テレビを見たよ。」と声をかけて頂き、大いに励みになった。

あるショーが終わって、しばらくの後、テックレンジャー宛に小学1年生の女の子からテック

クレンジャーの絵が描いてあるファンレターが届いた。保育園のお子さんからも手紙が届いた。保護者の方の手紙には「撮影してきたビデオを毎日見てポーズをしています。」と微笑ましい記念写真が添えてあった。ファンレターを読んだ生徒は「よ～し、これからがんばるぞ～」と元気をもらうことができた。

本年度、電子機械科3年生の課題研究において、保育園の遊戯室の広さがあればショーを公演できるヒーローの開発をテーマに4月から研究し、“テックレンジャーZ”が誕生した。交通安全啓発を呼びかけるショーを近くの幼稚園で公演したところ、大好評だった（写真11、12）。

大勢の方にショーを見て頂き、子ども達とは握手をし、一緒に記念撮影をする。「かっこよかったよ、がんばってね。」と子ども達や保護者の方に褒めてもらう。生徒は地域の方々とふれあい、支えてもらって次のショーへの原動力を補充している（写真13）。

2. CMコンテスト

SBC交通安全CMコンテスト（テレビ部門）



写真13



写真14



写真15



写真16



写真17



写真18

に作品をクラブで制作し、応募している。なんと、3年連続グランプリを受賞することができた。作品はSBCのCMとして放映されるので、ぜひ見てほしい(写真14)。

長野朝日放送では各市町村を紹介するabnふるさとCM大賞を開催している。昨年は飯田市と宮田村のCM制作に協力し、飯田市が見事“ふるさとCM大賞”、宮田村は審査員特別賞(アイデア賞)を受賞した。CMとしてそれぞれ365回、30回放映されたので、ご覧頂いた方もいらっしゃると思う。入賞を目指しているので、応援をよろしくお願いします(写真15)。

3. ホビーフェスタ

飯田精密機械工業会・飯田市工業課と連携し、一昨年までインドアプレーンフェスタとして開催していたが、昨年は趣味全般に拡大した「ホビーフェスタin飯田2013」として11月4日に飯田市南信州・飯田産業センターにて行われた。

制御部の生徒が中心となって、子ども向け紙飛行機製作教室・大会、テックレンジャーショー、インドアプレーン大会、鉄道模型展示などを行い、大盛況であった(写真16~18)。

4. 終わりに

コンピュータ制御部はテックレンジャーやインドアプレーンを柱とし、総合技術を体験でき

る全国でも貴重なクラブ活動を展開している。今後とも応援をよろしくお願いします。

5. 平成25年の活動の記録の一部

- 5/5 飯田市かざこし子どもの森公園 テックレンジャーショー
- 6/2 ドリームファンタジア飯島町テックレンジャーショー
- 6/30 JAサービス伊賀良テックレンジャーショー
- 7/13・14 桜姫祭テックレンジャーショー
- 8/4 お仕事キッズタウン紙飛行機製作教室
- 9/29 セレモニーホール テックレンジャーショー
- 10/12 飯島秋桜祭りテックレンジャーショー
- 11/9 子ども科学工作教室ボランティア参加
- 11/24 かざこし子どもの森おもしろ科学工房とコラボして紙飛行機製作教室&テックレンジャーショー
- 11/29 聖クララ幼稚園テックレンジャーZショー
- 12/22 飯田市橋北地区イルミネーションフェスタ テックレンジャーショー
- 12/25 宮田村東保育園テックレンジャーZショー

工業教育資料 通巻第 355 号

(5月号) 定価 210 円 (本体 200 円)

2014 年 5 月 5 日 印刷

2014 年 5 月 10 日 発行

印刷所 株式会社インフォレスト

© 実教出版株式会社

代表者 戸塚雄次

〒102 東京都千代田区五番町5番地

-8377 電話 03-3238-7777

<http://www.jikkyo.co.jp/>